放射線科を紹介させていただきます



診療機器

X 線撮影装置・X 線透視装置
CT 撮影装置・MRI 撮影装置
超音波検査装置

「人と機器によって見えないものを見える化」する科になります



放射線科では、診療放射線技師６名と助手１名が働いています。

レントゲン・CT・MRI・超音波（エコー）などの検査機器を使用し、病気の早期発見や診断を支えています。

特に超音波検査に力を入れ、臓器の小さな変化や特徴的な所見を捉えるよう努めています。

また、膵がんの早期発見に向けて、MRIで膵管などの状態を調べ、必要に応じて超音波内視鏡による精密検査につなげています。

患者さんが安心して検査を受けられるよう、丁寧な対応を心がけています。
検査のことや気になることがあれば、お声がけください。

▶帯広中央病院　放射線科

社会医療法人　恵和会　／　事業所案内

詳細はこちらからご確認いただけます。 **https://obihiro.keiwakai.jp/obihirochuo-hosp**

帯広中央病院 …… TEL(0155)24-2200
サービス付き高齢者向け住宅おびこハウス …… TEL(0155)20-3101
デイサービス スローライフ おびこ …… TEL(0155)20-3102
ケアプランセンター帯広中央 …… TEL(0155)20-5000
グループホームどんぐり …… TEL(0155)43-4700
グループホームかしわ …… TEL(0155)58-2002
訪問看護ステーション帯広すずらん …… TEL(0155)20-5111

輪・和・話（わわわ）

第７号
2026.11

社会医療法人 恵和会
帯広中央病院
〒080-0017
帯広市西7条南8丁目1番地3
TEL（0155）24-2200

恵和会法人理念　●地域に密着した良質な医療の提供　●地域住民の健康を守る一助となる

＼ これからの季節 ／

風邪とインフルエンザには気を付けましょう！！

11月は秋が深まり冬の気配が感じられる季節です。すっかりと寒くなり、吐く息が白くなってくる頃となりました。身体が冷えると免疫力が下がって体調を崩しやすくなります。防寒や感染対策を行い、自分の体をしっかりと守りましょう。そこで今回は、風邪とインフルエンザの違いについて、まとめてみました。

	風　邪	インフルエンザ
感染力	あまり強くない	強い
発症スピード	ゆっくり	急激に悪化
潜伏期間	２～４日	２日（2~5日）
感染経路	飛沫・接触感染	飛沫・接触感染
症状の特徴	鼻や喉までの上気道の症状が強いことが多く、時に頭痛や下痢などの腹部症状もある	高熱、筋肉や関節の痛みなど、強い全身症状がある
熱	38℃までの発熱が多い	38℃以上の高熱が多い
検査方法	なし	抗原検査
治療法	対症療法	抗インフルエンザ薬

※同じような症状がみられる場合もあります。自分で安易に判断することは禁物で、まずは医療機関への受診をおすすめします。気をつけたい病気についての知識としておさえておきましょう。

**当院でもインフルエンザワクチン接種可能ですので、
お気軽に事務部（代表）0155-24-2200 までお問い合わせください。**

社会医療法人 恵和会
帯広中央病院の訪問診療と往診

内科　前田 修一 医師

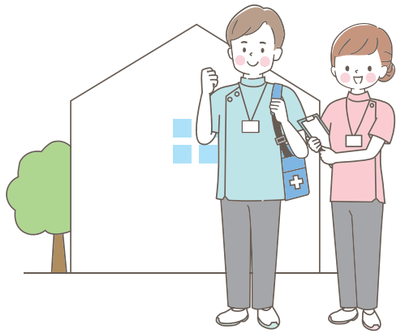
訪問診療とは、病気や高齢で移動困難、認知症などの理由で病院への通院が困難な人の自宅や、滞在中の施設に、医師や看護師が**定期的に計画を立てて**訪問し、診療・治療・薬の処方・健康管理を行うことです。

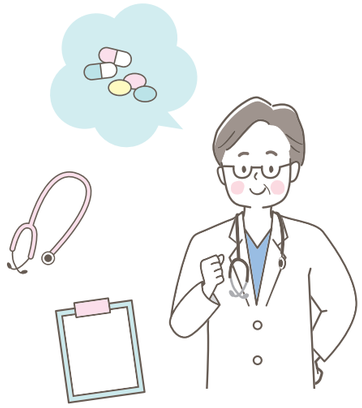
一方、往診とは、通院が難しい患者の求めに応じて、医師が**予定外**に患者様の住んでいる自宅、施設に行き臨時の診療を行うことです。

中央病院が現在訪問診療しているのは、

●介護付き有料老人ホーム：２施設
●住宅型有料老人ホーム：１施設
●サービス付き高齢者向け賃貸住宅：３施設
●グループホーム：5施設
●個人宅：数人
合計　約220人

です。各施設には、薬の投与に伴い、担当の薬局とも連携し、訪問診療時には薬剤師の同席も行っています。当法人には「訪問看護ステーション帯広すずらん」と、「ケアプランセンター帯広中央」がありますが、訪問看護、訪問点滴も「すずらん」をはじめ、幾つかの訪問看護ステーションと連携し、必要時に施行しています。患者様の急変時には往診も行っていますが、訪問診療が出来る医師が少なく、夜間の病状急変時には当院当直医で対応し、朝まで待てる場合には朝一番に前田が患者宅に伺っています。





自宅や施設での“看取り”が重要視される昨今ですが、個人宅では可能ですが、施設入所中で“看取り”はなかなか難しく、可能な施設は数か所に限られているのが現状です。今の日本での在宅医療の現状を考えると、患者様の病状の悪化の際、多くの場合は入院対応が必要であり、この点を病院としても患者様の病態に応じての対応をするのが職務であり、訪問診療をしている病院に普段から診療を通して関係があるという事は、患者様の安心感にもつながっていると考えられ、非常に大事なことと考えています。

帯広における患者様の特殊性は、90歳前後の高齢化に伴い、ご家族も60歳前後の高齢となり、また、札幌、東京などの遠隔地に居住されていることも多く、急変時の対応が難しい事が挙げられます。医療側も、この非常に微妙で重要な点にも柔軟な対応を求められることを自覚しております。

落ち着いている在宅患者様をみる際のポイントに「**五快**」があります。
「五快」とは、１快眠　２快食　３快便　４快動　５快重（体重）で、
これら５つをルーチンに、診療の際に意識することが重要とされています。

